令和３年度第３回春日井市観光・にぎわい創出推進会議議事録

１　開催日時　令和４年３月 17 日（木）午前 10 時 00 分～正午

２　開催場所　春日井市役所南館４階　第３委員会室

３　出席者

【会　長】名古屋国際工科専門職大学工科学部　教授　佐藤　久美

【委　員】東海旅客鉄道株式会社春日井駅　駅長　藤本　一郎

名鉄観光サービス株式会社商品事業本部商品開発部　副部長　福井　佳代

株式会社新東通信クリエイティブ本部　プロモーションプランナー　水野　香代

春日井商工会議所　副会頭　岡部　清次郎

一般社団法人春日井市観光コンベンション協会　会長　水野　隆

公募委員　水谷　忠成

公募委員　田本　雅子

【オブザーバー】

愛知県観光コンベンション局　観光振興課長　小島　馨

一般社団法人愛知県観光協会　専務理事兼事務局長　榊原　仁

【事務局】産業部　部長　足立　憲昭

経済振興課　課長　藤井　隆史

課長補佐　鈴木　公博

主査　柴田　知宏

主事　長谷川　裕子

【計画策定支援業務受託事業者】

三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社（ＭＵＲＣ）

政策研究事業本部名古屋本部研究開発部　上席主任研究員　田中　三文

主任研究員　小森　清志

研究員　吉田　夏稀

【傍聴人】　５名

4　議題

(1) 春日井市観光・にぎわい創出基本計画骨子（案）について

5　会議資料

次第・委員一覧・座席表

資料１　春日井市観光・にぎわい創出基本計画骨子（案）

資料２　アクションプランの提案について

資料３　意見、質問一覧

6　議事内容

議事に先立ち、配布資料の確認等を行った。

(1)　春日井市観光・にぎわい創出基本計画骨子（案）について

【事務局藤井】　（資料１～２に基づき説明）

(2)　意見交換

【佐藤会長】　（資料３を用いて欠席委員の意見を紹介）

【水野(香)委員】　（資料３に基づき説明）

現状と課題に「地域資源が活用されていない」とあるが、９ページに挙げている資源のいずれを指しているのか。

【事務局藤井】　９ページに挙げた全てのものを指すものと考えている。

【水野(香)委員】　キャッチコピーは、他市町に名前を置き換えても成立するものより、春日井ならではの差別化が必要。「サボテン」や「書」を加えてみては。

【田本委員】　キャッチコピーを作る必要性は何か、この会議の場で決める必要があるか。観光を推進するにあたり市民を巻き込むためのものであるとすれば、宣伝を兼ねて市民から募集するという方策はどうか。

【事務局藤井】　計画を誰に読んで欲しいかと考えれば、市民に意識を持ってもらうためにも、情報発信することは重要な観点であるため、一般公募も良い手法であると考える。

【水野(香)委員】　様々な年代の方に参加してもらうことは重要であるため、公募には賛成する。

【藤本委員】　さわやかウォーキングを開催し、2,198 名の参加があった。参加者からは、コースとして設定した落合公園・ふれあい緑道・下原古窯に対して、春日井の魅力として捉え、満足を示す意見が挙がった。参加者はツイッターなどを通して情報発信をしている。

【水谷委員】　（資料３に基づき説明）

具体的な提案になるが、サボテンについては、使用されていない畑やビニールハウスを活用して食用サボテンの生産に繋げるような支援を行うこともできるのではないか。

愛岐トンネルのように、市内の歴史的な建築物を観光資源として見出すことも重要。また、市内には様々な企業がある。工場見学や企業の技術を活用したイベントも集客につながるものと考える。

外国人労働者も多い。市の魅力は中にいると魅力はなかなか気づけない。外からの意見を取り入れてはどうか。

【田本委員】　（資料３に基づき説明）

春日井は観光都市ではなく、暮らすまちという認識が市民にとっても一般的なもの。一方で、地域情報紙の取材を通して様々な魅力を感じている。発表の場を求めている音楽団体がある。活動資金の調達がネックとなっている。近隣の住民の方からの情報提供がきっかけでサボテン畑を取材した。東海自然歩道を上がって玉野御嶽神社にネコに会いに通う方も多い。地域の素材や人のつながりを活かして、少し背中を押すことができれば動き出すものが多いと感じている。

そのためには、それぞれに携わっている人の思いを丁寧に聞くことが大事だと思う。

【小島オブザーバー】　（資料３に基づき説明）

骨子案は全体として面白いものと感じている。その内容を市民にどう伝えるかが大事。

計画策定の目的はもう少し掘り下げが必要。目的としている「にぎわい創出」は手段の域を脱しない。将来にわたる持続可能な社会経済の実現ということが本質的な目的だと思う。

「交流人口」は外部からの来訪者を指す。市民を対象とすることが春日井の観光の特徴。市民も含めていることを表現することが必要。

観光の定義について、主旨はわかるが、新しい定義を示す表現としては抽象的と感じる。「コト」「トキ」とは何を意味するのか、説明が必要。

余暇・趣味という方向性は面白い。職場でもない、自宅でもない、第３の居場所を意味するサードプレイスの考え方に通じるものがある。これを狙うことも面白いと考える。

「磨き上げ」は便利な言葉だが抽象的なもの。磨き上げとはこういうことをすること、という共通認識が必要。

サボテンについては、観光と産業振興とを両面で取り組む必要がある。観るだけのものでなく、どんな価値があるかを消費者に伝える、生産現場・体験学習を通じてサボテンの価値を理解してもらい購買意欲に繋げる、そういう観点があってもいい。また、参加者をリスト化するなど継続的にアプローチできる関係性を築く取組も重要。ファンを増やす・ファンの発信からまたファンが増える。一気にひろげようということは難しい。少しずつ広げていくことが現実的。

【佐藤会長】　「コト」と「トキ」の表現は、春日井で何ができるか・何をして過ごすかを一人一人が考える、というような呼びかけにできないか。

『みんながデザインしていく「コト」、自分ならではの「トキ」を過ごす』という考え方に繋げられると良い。

【榊原オブザーバー】　小島オブザーバーと同じ見解。

基本理念にある「交流人口」については、なぜ増加させる必要があるのかに触れ、説明した方がいい。

「観光」の定義については、「余暇・趣味」というキーワードは面白いと思うが、「コト」「トキ」は少し弱い。会長の意見のとおり整理できれば頭に入りやすくなると思う。

キャッチコピーは総合計画と似ているため、変える必要があると思っていた。一般公募に賛成。

春日井の素材を単体で観光を成立させるのは難しいかもしれない。イベントを契機とするのも手法。アジア大会が近々開催される。スポーツを地域資源としてはどうか。例えば剣道など。

書道もＰＲできる素材。学生が取組んでいるパフォーマンスなども面白い。

春日井三山は登山者でにぎわっているが、行政の管轄が、環境部・教育委員会・産業部と別れているようだ。組織の枠を超えた連携が本計画により図られることを期待したい。また、観光を進めるにはアクセスが重要。都市政策課のＭａａＳの取組とも連携をしてほしい。

先日、名鉄観光が募集していた春日井サボテンモニターツアーに参加した。非常に良かった。おいしいサボテン料理もあり、楽しむことができた。ぜひ継続してほしい。

【福井委員】　観光庁の補助事業としてサボテンをテーマに域内連携実証事業を実施した。サボテンをどう観光に繋げるかに取り組んだが、市の特徴である「実生サボテン」に対する市民の認知度が低いことがわかった。

市民はサボテンに愛着はあるが、どう育てるか・どこで食べるかどう関われるかを知らず、戸惑っていたという印象を受けた。セミナーを通じて、育て方・食べ方の理解を深めてもらう機会になった。

モニターツアーを実施した。現状、ツアーに関われる施設は少ない。課題は、アクセス。オンラインツアーには全国から参加があった。実生サボテンの生産を映像で紹介し、寄せ植え体験を実施。面白い経験として認識してもらえた。これらのツアーは、参加者の費用負担を求めないものだった。観光の持続性という観点では、いかに消費に繋げるかが重要。春日井市の観光資源はお金を落とすところがない。お金が地元に落ちる仕組みをしっかり作っていかないと持続しない。

アクションプランの①もてなす、②伝わる、③つながるは非常に重要だと思う。春日井市民が市内で多く過ごしているということは、お金は落としていないが観光をしているようなもの。次はそういったことを他の人に伝えていくことも春日井市民の役目だと思う。しかし、春日井市民が春日井市を観光のまちとはとらえていないため、市民が実感している住みやすいまちという側面を推して観光に取組んでいくのが良いと思う。春日井の観光として伝えることに繋がると良い。本計画を機会に観光に力を入れて、観光を盛り上げるような雰囲気を作ることが重要。

【佐藤会長】　観光が産業として成り立っていくことが重要で、経済の下支えがあってこそ持続可能になるため、いかに循環させていくかを市民も含めて考えていく必要がある。

【水野(隆)委員】　観光に取り組む目的を、人口問題の解決策とするには無理がある。一助にはなるかもしれないが。人口減少は全国的な問題であり、大上段に掲げると楽しくないというのが感想。本来観光は楽しむもの。

この計画で春日井市が何を誰にどのように伝えるかが曖昧であり、明確にするべき。「人材の発掘」とあるが、むしろどう育て上げるかが重要。観光・おもてなしに関する人材育成に投資することが必要。

東部丘陵は愛岐トンネルを含めて有効な手段。計画にどう位置付けるか、インフラ整備はどうするか、検討しなければならない。

都市間連携について、春日井は観光面では周辺に比べて遅れをとっている。隣接市はもちろんＦＤＡ就航都市・姉妹都市といった新しいチャネルでの連携が必要。

観光コンベンション協会では、今年度フィルムコミッションの部署を立ち上げ準備している。映画だけではなく、テレビ局やユーチューバーの取材への対応をする。春日井市のＰＲに加えて経済との関わりをどう持たせるか、産業の活性化を頭において計画を作っていくことが大事。

【岡部委員】　基本理念にある「にぎわい」とは、何のためのにぎわいかと考えると、「楽しさ」が一番。にぎわい・観光の楽しさを市民に伝えられるような言葉がほしい。

春日井における観光、すなわち国の光は何か、具体的には色々な素材もあるが、春日井は商業のまちでもある。９割が中小企業だが、ビジネスとして、そこにどう観光を結びつけることができるか。総花的にはなるが、産業観光、スポーツツーリズム、グリーンツーリズム、

医療ツーリズム等の観点を含めてほしい。

【佐藤会長】　資料２のアクションプランについては、誰が作成するのか。

【事務局藤井】　市（事務局）だけでは限られた案しか出てこないため、委員や市民の方からのご意見（ワークショップやヒアリング等、手法は検討）をもとに作成したい。

スタートとしては、地域資源をある程度絞って、そこに携わっていただけるであろう方々や、地元と関わりつつ外からの目線という面では中部大学の学生にアプローチして意見を聞きたいと考えている。

【水野(隆)委員】　まとめ方としてこのマトリクス表で良いのか、地域資源はこの素材・分類で良いのかを検討する必要がある。

市役所内に組織横断で構成するサボテンのプロジェクトがあるが、このような市の若手職員がわが事として検討する機会が有効ではないか。

【岡部委員】　市の若手職員に、商工関係の若手も加えてもらえたら。大いに意見が出ると思う。

【佐藤会長】　コーディネーターの役割が重要で、言いっぱなしの意見をまとめる人材がいると良い。表の形式は書きやすく良いと思う。

【水野(隆)委員】　「書」「寺社」を合わせて、「歴史」として括ってはどうか。発想に広がりが生まれるのでは。

【佐藤会長】　少し大きな括りにしても良いかもしれない。

大切なのは人材であるため、取り入れてもらえると良い。

最後に意見があれば。

【小島オブザーバー】　伝わる・伝えるということは、重要なテーマ。

サボテンにしても書にしても寺社にしても歴史にしても、素材の魅力をどう伝えていくのかは非常に重要。

まずはどんな魅力があるかを洗い出していくことから始めて、魅力を価値に変えて、消費に変えていく、と発展させて考えていくことになる。

経済活性化という観点からは、地域経済循環という考え方がある。域外へお金が流れないように、域内のもので生産するなど、域内でお金が回っていくように意識して取り組んでいくことが重要。

【佐藤会長】　総括すると、本計画において、多様性・回遊性・唯一性、これらをいかに打ち出していくかが重要と考える。

目的・キャッチコピー・基本理念・観光の定義について、意見が挙げられた。計画案の作成に反映してほしい。

上記のとおり、令和３年度第３回春日井市観光・にぎわい創出推進会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席委員のうち１名が署名する。

令和４年４月 14 日

会　長　　佐藤　久美

署名人　　福井　佳代